

知事が企業訪問する（全国最下位の障害者法定雇用率1.6%からの脱出）と同様に

賃金の底上げも企業に要請してほしい。

14春闘要請

三重県副知事、正副議長と懇談



懇談する石垣副知事とずらり並んだ県担当者 3月19日 県庁知事室にて

みえ労連は、第3回あすの三重を考える集い（2/23講演とシンポ・7分科会294名参加）に続き、春闘要請に取り組みました。要請は、県内に本社がある大企業・銀行（5）、商工会議所（9）、経営者団体（2）、医師会・J A・県社協・生協連（4）、市長会・町長会・県人事委員会（3）。3/19には恒例の三重県副知事との懇談に続き、初めて県議会正副議長とも懇談しました。

県への要請項目と副知事の回答

1. 県内のすべての労働者の賃金を引き上げるよう、各企業へ働きかけてください。

可処分所得をあげなければ元気が出ないのはおっしゃるとおり。

トヨタなど「ものづくり」で賃上げが先行している。小売・スーパーなどでも1000円上げるところが出てきた。地方からデフレ脱却・雇用創出は知事のスタンスである。中小企業・小規模企業支援のための条例を議会へ提出している。

2. 公務員賃金の動向が民間労働者や地域経済に影響を与えることをふまえ、「給与制度の総合的見直し」など賃下げにつながる制度改悪に反対してください。

県職員の給与カットは2014年3月31日をもって終了する。

公務員賃金は人事委員会の勧告を待つ。

3. 三重県の臨時事務職時給を、1000円以上（年収200万以上）となるよう努力

し、また、29市町の見本となるよう努力してください。さらに、県の関連機関で働くすべての非正規労働者の雇用の安定、賃金・労働条件の均等待遇に努力してください。

現在980円だが、他県の動向を見ながら取扱いについて検討していく。

4. 障がいを持つ仲間を、働く仲間として受け入れる環境を抜本的に改善し、法定雇用率全国最下位の汚名を返上するため、努力してください。

また、三重県の医療従事者が全国水準から低位に置かれている現状や介護労働者が転職を余儀なくされる現状を抜本的に改善するため努力してください。

県の障害者雇用は平成25年度（6月1日現在）2700人で1.6%、法定雇用率は2.0%、残念ながら全国最下位。知事と労働局長が連名で要請書を出し、企業を回っている。総合文化センターの中に障がい者が働くカフェを作るなど計画している。

医師不足は中長期的な見通しを持って取り組んでいる。医学修学資金貸し付け制度など。看護師不足は一層深刻。就労環境の整備、リタイヤされた方



の復帰など。介護労働者は確かに給与低い。国の方で緊急補正をして支援している。

5. 拙速に進められている「子ども子育て新支援法」について、各市町の努力を励ますよう三重県としての役割を果たしてください。

市町は就学前子育てなどで保護者アンケートをとっている。県は市町を支援する立場。児童虐待・障がい児教育は県の責任として取り組む。

6. 自治体が結ぶ公共事業、業務委託や指定管理者などの公契約等については、公共サービス基本法に基づい

て、そこで働く労働者の人間らしい適正な賃金・労働条件を確保する、公契約条例の制定を進めてください。

長野県で条例化の動きがあったそうだが、他県の動向を見ながら。三重県としては総合評価制度で「低入札」対策をしている。

7・都道府県を廃止し、全国を10程度の道や州に再編、その下に現行の市町村区域を基本にした「基礎自治体」を設置するという道州制に反対してください。

全国知事会として政府・与党へそれぞれ地方の意見を十分に反映させることを要請している。与党が法案を検討しているが、国民的議論が必要だ。

8・雇用を破壊する派遣労働の自由化や労働時間規制の適用除外の拡大につながる規制緩和に反対してください。

国の流れを注視していると
いうところだ。

9・浜岡原発をはじめ三重県周辺の原発の再稼働は、認めないよう電力会社へ申し入れてください。さらに、危険な

原発に代わる再生可能エネルギーへの転換を、住民との共同で進めてください。

原発は「安全第一が原則」が基本スタンス。将来的には原発依存度低減。その過程においてどういう選択をするか。再生可能エネルギーへの転換では、木曾岬の太陽光発電は日本一、島崎町のバイオマス発電もすすんでいる。

正副議長との懇談

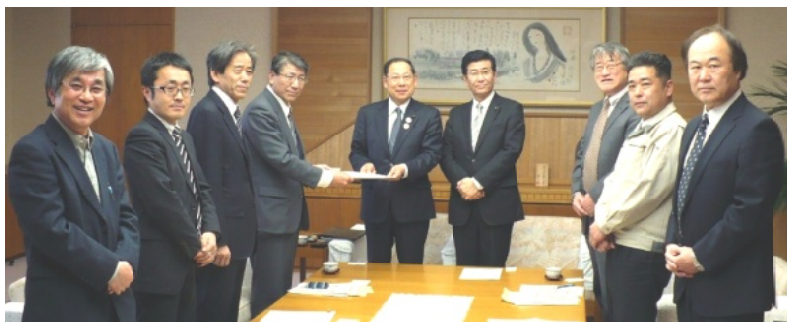
副知事との懇談に続き、県議会議長・副議長とも同様の項目で懇談をしました。

○知事も少子化対策には力を入れて

○公契約条例は議会でも質問よく出るが当局は慎重だ 看護、建設などいろんな職種から要望が出ている

○アメリカは州によって法律が違う(例えば禁煙など)。国が言う道州制がどういものか形が見えない。論議のしようがない中では反対といわざるを得ない。

○2021年みえ国体では今の中高生が主力になる。人材育成、ジュニアの育成が急務だ。
などと意見を表明されました。



要請書を手渡すみえ労連臼井議長
「このような懇談は初めてですなあ」と緊張した様子の山本勝議長と前田剛志副議長

3月19日
三重県議会議長室にて

3月15日鈴亀労連結成 全国で465番目の地域労連誕生



5単産479名で出発 初代議長に辻井さん

2014年3月15日(土)鈴鹿市ぐみの木ほいくえんにて鈴亀労連結成大会が行われました。大会には代議員・役員・来賓・傍聴者など32名が参加。ぐみの木分会の小林さんが大会議長を務め、規約・方針・役員を満場一致で承認しました。この日に向けて昨年12月より4回にわたって準備会を重ね、ここに全国465番目、三重県では3番目の地域労連がスタートしました。



結成大会のあとは梁天任さんによる記念コンサートが行なわれました。
すばらしい演奏にアンコールがくりかえされ、予定時間をはるかにオーバーする大熱演でした。
演奏後、会場で呼びかけられた「東日本復興支援カンパ」には36200円が寄せられました。カンパは6月ごろに東北に演奏に行く梁天任さんに託しました。